

ている。その主な内訳をみると、配偶者が25.0%、子が17.9%、子の配偶者が14.3%となっている。また、性別にみると、男性が28.1%、女性が71.9%と女性が多くなっている。

要介護者等と同居している主な介護者の年齢についてみると、60歳以上では、男性では65.8%、女性では55.8%と、半数以上を占めており、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在していることがわかる（図1-2-35）。

ウ 「要介護5」では約半数がほとんど終日介護を行っている

同居している主な介護者が1日のうち介護に要している時間をみると、「必要な時に手をかす程度」が37.2%と最も多い一方で、「ほとんど終日」も22.3%となっている。要介護度別にみると、要支援1から要介護2までは「必要な時に手をかす程度」が最も多くなっているが、要介護3以上では「ほとんど終日」が最も多くなっており、要介護5では約半数がほとんど終

日介護している。なお、平成19（2007）年の調査と16（2004）年の調査を比較すると、「ほとんど終日」が0.7ポイント、「半日程度」が2.1ポイント増加する一方で、「必要な時に手をかす程度」が7.5ポイント減少している（図1-2-36）。

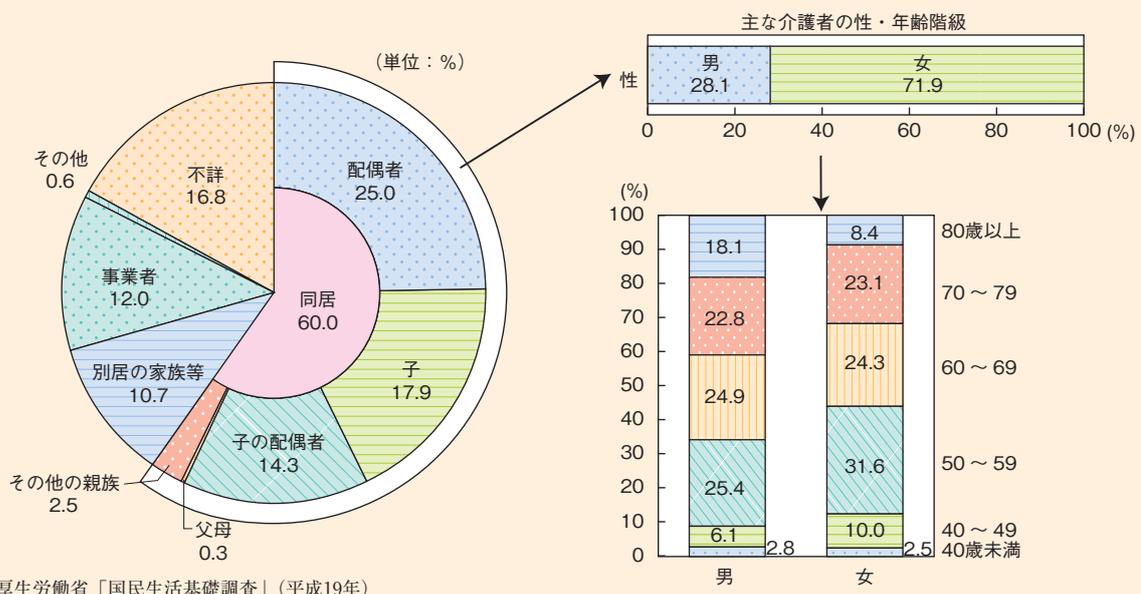
（3）若年期からの健康づくりが重要

65歳以上の高齢者の死因となった疾病をみると、平成18（2006）年において、心疾患、脳血管疾患の2つの疾病で約3割を占めている（前掲図1-2-28）。また、高齢者が介護を要する状況となった理由の4人に1人は脳血管疾患である（前掲図1-2-33）。

また、肥満者の多くが、高血圧症、脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病を併せ持ち、これらの危険因子が重なるほど、心疾患、脳血管疾患を発症する危険性が明らかとなった。

そういった中で、平成17（2005）年4月、日本内科学会等の8つの学会が、内臓脂肪の蓄積に着目して、「メタボリックシンドローム（内

図1-2-35 要介護者等からみた主な介護者の続柄



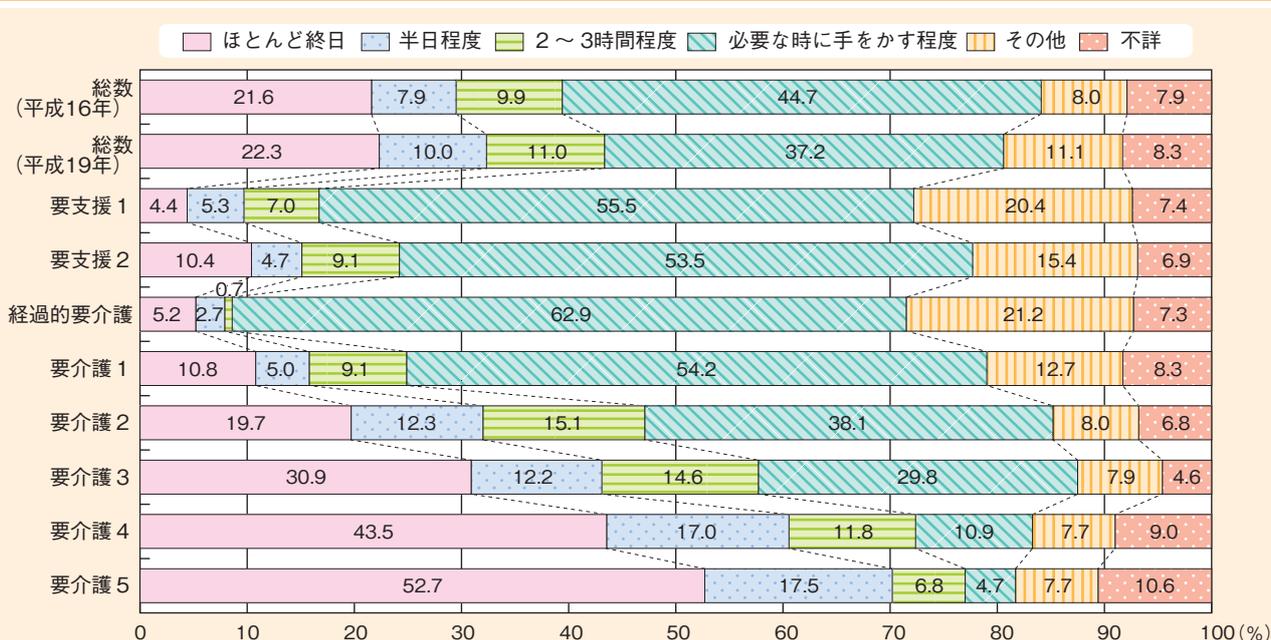
臓脂肪症候群)」の考え方を取りまとめ、メタボリックシンドロームに着目して、効果的に生活習慣病予防を行うことを提言している。

平成19（2007）年の「国民健康・栄養調査」によると、メタボリックシンドロームが強く疑われる者と予備群と考えられる者の合計は、総数で男性49.4%、女性17.2%となっている。年齢階級が高くなるほど増加する傾向がみられるが、特に40歳以降増加する傾向がみられ、40～

74歳では男性の56.2%（2人に1人）、女性の19.2%（5人に1人）が、メタボリックシンドロームが強く疑われる者又は予備群と考えられる者である（図1-2-37）。

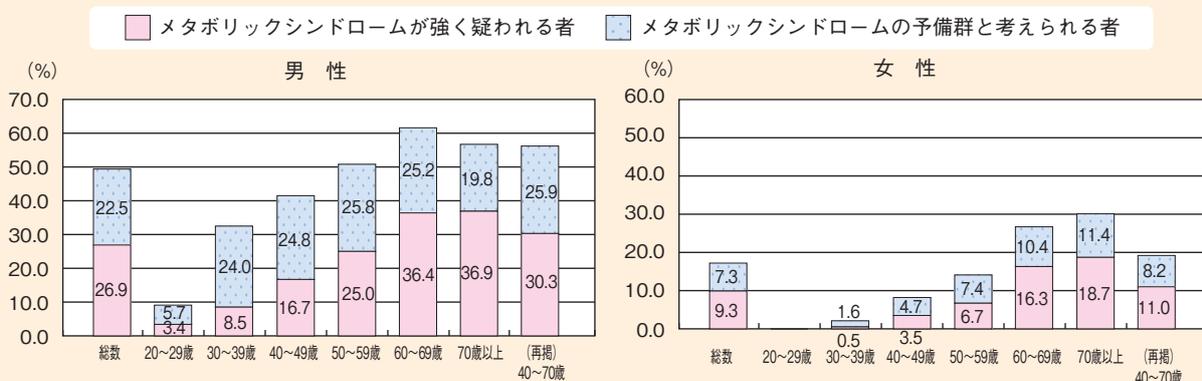
また、メタボリックシンドロームに関連する生活習慣の状況を年齢階級別にみると、運動習慣のある者の割合は20歳代、30歳代などの若い世代で低く（20歳代男性は22.7%、女性は14.1%、30歳代男性は18.8%、女性は16.3%）、

図1-2-36 同居している主な介護者の介護時間（要介護者等の要介護度別）



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」
 (注)「総数」には要介護度不詳を含む。

図1-2-37 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者・予備群の現況



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」（平成19年）
 (注) メタボリックシンドロームが強く疑われる者：
 腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上で、3つの項目（血中脂質、血圧、血糖）のうち2つ以上の項目に該当する者
 メタボリックシンドロームの予備群と考えられる者：
 腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上で、3つの項目（血中脂質、血圧、血糖）のうち1つに該当する者

朝食の欠食率についても若い世代が高い状況にある（20歳代男性は33.1%、女性は23.5%、30歳代男性は27.0%、女性は15.0%）（図1-2-38）。

64歳で73.1%、65～69歳で50.1%となっており、60歳を過ぎても、多くの高齢者が就業している。また、不就業者では、60～64歳の不就業者（26.9%）のうち3割以上の者が、65～69歳の不就業者（49.9%）のうち2割以上の者が、それぞれ就業を希望している。また、女性の就業者の割合は、55～59歳で61.6%、60～64歳で43.5%、65～69歳で28.2%となっている（図1-2-39）。

また、60歳以上の有職者の就業を希望する年齢についてみると、平成19（2007）年の意識調

4 高齢者の就業

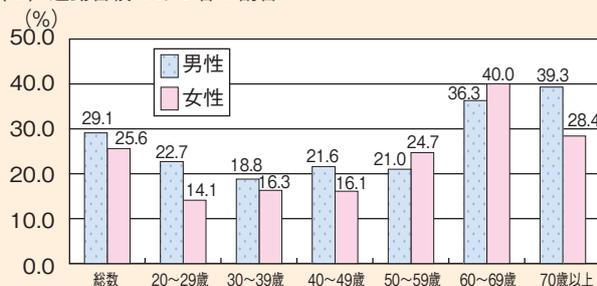
(1) 高齢者の就業状況

ア 60歳を過ぎても働く高齢者、働きたい高齢者は多い

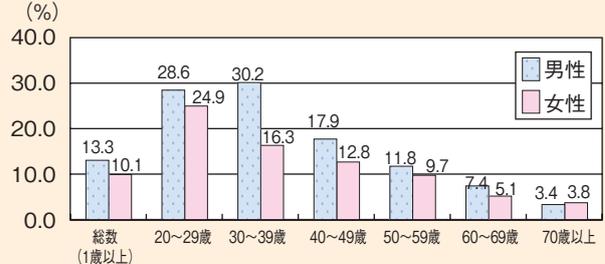
高齢者の就業状況についてみると、男性の場合、就業者の割合は、55～59歳で90.5%、60～

図1-2-38 年齢階級別にみた生活習慣の状況

(1) 運動習慣のある者の割合



(2) 朝食の欠食率

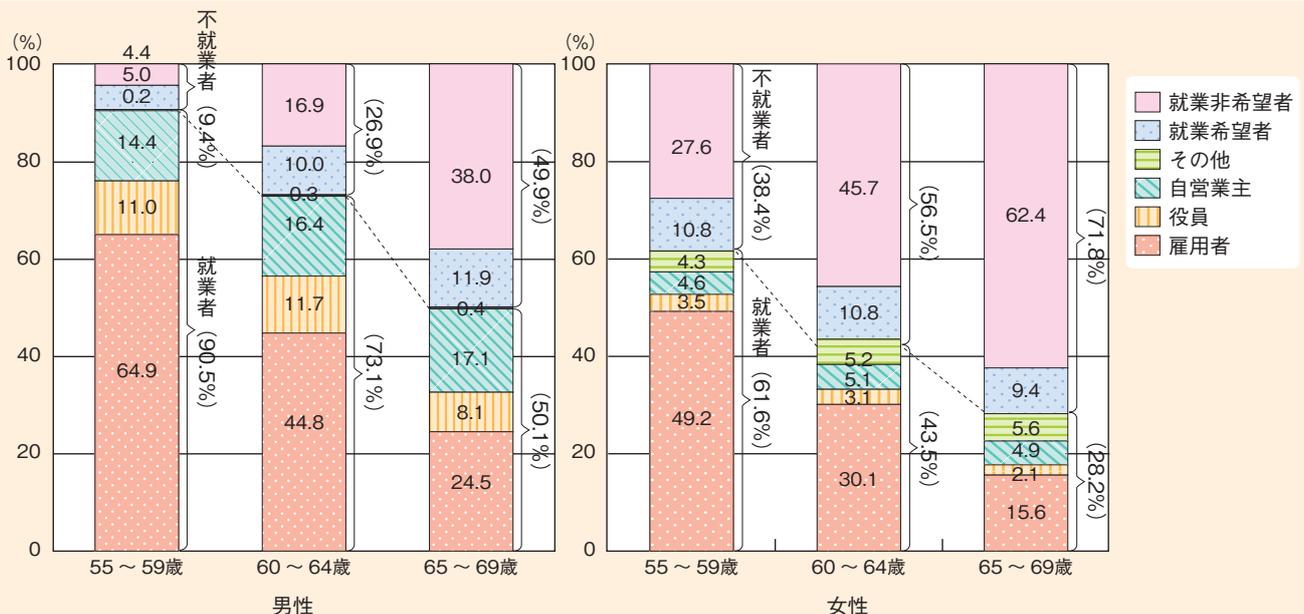


資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」(平成19年)より作成。

(注1)「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者。

(注2)「欠食」は、①何も食べない(食事をしなかった場合)、②菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみ食べた場合、③錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラル、栄養ドリンク剤のみの場合、の3つの場合の合計。

図1-2-39 高齢者の就業・不就業状況



資料：総務省「就業構造基本調査」(平成19年)